

本報告書は、厚生労働省の厚生労働科学研究委託事業による委託業務として、国立保健医療科学院健康危機管理研究部上席主任研究官齋藤智也が実施した平成26年度「新型インフルエンザに対する治療の標準化法の開発等に関する研究」の成果を取りまとめたものです。



201447021A(2/3)

# 新型インフルエンザ発生時対応訓練にかかる ファシリテーターズガイド

厚生労働科学研究委託費新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業  
新型インフルエンザに対する治療の標準化法の開発等に関する研究  
平成26年度 委託業務成果報告書(分冊 2/3冊)

2015年3月

新型インフルエンザに対する治療の標準化法の  
開発等に関する研究班

(業務主任者)

国立保健医療科学院健康危機管理部  
上席主任研究官 齋藤智也

# 新型インフルエンザ発生時対応訓練にかかる ファシリテーターズガイド

---

2015年3月

新型インフルエンザに対する治療の標準化法の  
開発等に関する研究班

(業務主任者)

国立保健医療科学院健康危機管理部  
上席主任研究官 齋藤智也

## はじめに

新型インフルエンザ等対策政府行動計画において、国は、都道府県等と連携しながら、医療従事者等も含めて、新型インフルエンザ等の国内発生を想定した研修や訓練を行うことが想定されています。

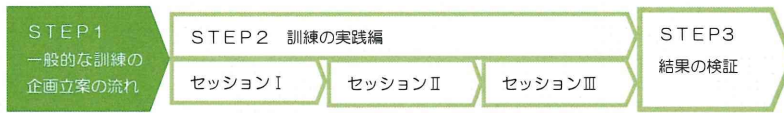
これまでも、国、都道府県、市区町村の様々なレベルで、研修や訓練が実施されてきました。地域によっては自主的に研修手法を確立し、訓練を実施している例もありますが、「訓練のやり方がわからない、訓練シナリオを作るのが難しい」といった意見が出されています。

本研究は、全国の各自治体あるいは地域ブロックベースで研修や訓練を実施できるようにするための、研修・訓練ツールを開発することを目的としています。また、行政担当者と医療従事者が連携を強化することや、作成した研修・訓練ツールを検証することを目的として、ワークショップ形式の試行訓練を行いました。

本資料は、各自治体が自ら研修・訓練を企画・実践できるように、本研究で開発した研修・訓練ツールを、ファシリテーターズガイドとして整理したものです。

## 目次

1. 一般的な訓練の企画立案の流れ.....	1
1.1 本資料の位置付け.....	1
1.2 訓練の企画立案.....	2
1.3 訓練準備.....	5
1.4 訓練当日運営.....	6
1.5 訓練振り返り・評価.....	7
2. 訓練の実践編.....	8
2.1 試行訓練について.....	8
2.2 アイスブレイキング（セッションⅠ：演習①）.....	13
2.3 未発生期～海外発生期（セッションⅠ）.....	14
2.3.1 未発生期～海外発生期（セッションⅠ：演習②）.....	15
2.4 国内発生早期（セッションⅡ）.....	21
2.4.1 国内発生期（セッションⅡ：演習③）.....	22
2.4.2 国内発生早期（セッションⅡ：演習④）.....	27
2.5 地域発生早期～地域感染期（セッションⅢ）.....	31
2.5.1 地域発生早期～地域感染期（セッションⅢ：演習⑤）.....	32
2.5.2 地域発生早期～地域感染期（セッションⅢ：演習⑥）.....	40
2.5.3 地域発生早期～地域感染期（セッションⅢ：追加演習）.....	46
3. 結果の検証.....	47



# 1. 一般的な訓練の企画立案の流れ

## 1.1 本資料の位置付け

訓練を実施する際には、計画・準備、実施、評価などの手順があり、表1に示すような関係者から構成されます。

企画立案者には訓練内容の検討や準備、当日の運営等、様々な役割が期待されます。ファシリテーターは、当日の議論の進行等を行います。その際も訓練内容や設問の目的などを企画立案者と共有することが望まれます。

本資料はファシリテーター用のガイドですが、ここでは企画立案の流れも含めてご説明します。

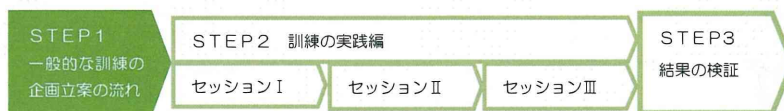
表 1 訓練の企画立案に関わる主な関係者

企画立案者	訓練の企画立案、訓練内容の検討、訓練準備、訓練の当日運営、訓練の報告書の作成などを行う。
ファシリテーター	訓練において、訓練の目的に沿った議論となるように、進行役を行う。事務局側がファシリテーターを担当する場合と、参加者の中からファシリテーターを選出する場合がある。事務局側がファシリテーターをあらかじめ指定し、事前に説明会等でインプットすることが考えられる。
スーパーバイザー	訓練の課題の解説や、訓練内容に対する専門的な質問への対応を行う。ファシリテーターが兼務、又は専門家を招へいすることが想定される。
訓練評価者	訓練の講評や評価を行う。上記のスーパーバイザーが行うこともあれば、訓練のエキスパートが行うことある。

訓練の企画立案には、一般的には表2のような検討段階があります。

表 2 訓練の企画立案から実施に至る流れ

計画・準備	訓練の企画立案	訓練の目的、訓練形式、日程、訓練実施場所、訓練参加者等、訓練の骨子の企画立案 必要な準備とその実施時期についてスケジュールを策定	
	訓練内容の検討	想定する事案の検討	病原性、事案の規模、検討するフェーズ、有症者の発生状況（年齢・場所等）を検討
		シナリオと検討課題の作成	訓練で想定する状況の推移を示したシナリオおよび検討課題の作成
	訓練準備	訓練実施体制の検討	訓練時の班構成、評価体制等の検討
		事前説明会の実施	訓練を円滑に実施するため、参加者に対し訓練の目的や進行方法の説明のオリエンテーションを実施
		訓練資料の作成	訓練実施概要、訓練シナリオ、状況付与、ワークシート、訓練振り返りシート等、訓練の運営・進行に必要な資料の作成
		訓練運営の準備	訓練告知、訓練参加者募集・とりまとめ、訓練の運営のための会場準備、備品の手配等
実施	訓練当日の運営	訓練会場の設営を行い、訓練を実施する。必要に応じて随時訓練の様子を写真撮影等により記録	
評価	評価・講評	検証リスト等に基づく評価や有識者等による講評	
	報告書の作成	訓練概要及び訓練結果、訓練アンケート等の取りまとめを行い、訓練結果報告書を作成	



## 1.2 訓練の企画立案

訓練の企画立案に際しては、以下のような目的、内容（訓練シナリオ）、参加者等を検討、決定します。

### (1) 訓練の目的及び対象者

まずは訓練で確認・検証すべき事項等を明確化し、訓練目的を設定します。

新型インフルエンザ発生に対する自治体の対応とそれに関連する訓練事項としては、例えば以下のようなものが考えられます。

表 3 訓練対象者とそれぞれに応じた訓練

訓練対象者	訓練目的	訓練事項	手法の例
【共通】 行政職員 共通テーマ	新型インフルエンザ等発生時のイメージの習得・共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生時の事態の進展イメージをつかむ。</li> <li>事態ごとに行政の対応と関係機関の対応を確認する。</li> </ul>	研修・講習会、机上演習 等
地方自治体 幹部職員 (コアメンバー)	対策の意思決定・判断の考え方の整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な対策の決定（自粛要請等）にあたって、判断材料や留意点等について考え方を整理する。</li> </ul>	机上演習、指揮所訓練
地方自治体の 新型インフルエンザ等対策 本部員	役割遂行のための能力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関等と必要となる情報収集・共有・調整等についてイメージをつかみ、現状で不足点がないかチェックする。</li> </ul>	机上演習
		<ul style="list-style-type: none"> <li>住民への広報の重要性について理解し、具体的な広報の方法についても対応を検討する。</li> </ul>	机上演習、指揮所訓練
一般職員	役割遂行のための能力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生時の担当部署の動きを把握する。</li> </ul>	研修・講習会、机上演習 等
医療関係者	発生時のイメージの習得・共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生時の事態の進展イメージを、特に病院内の患者の増加や医療スタッフの減少等の観点から把握する。</li> </ul>	研修・講習会、机上演習 等
	発生時の行政対応についての理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生時に行政がどのような対応を行い、医療機関にどのような情報提供を行うのかについて理解し、医療機関の対応の参考とする。</li> </ul>	研修・講習会、机上演習 等

### (2) 訓練内容

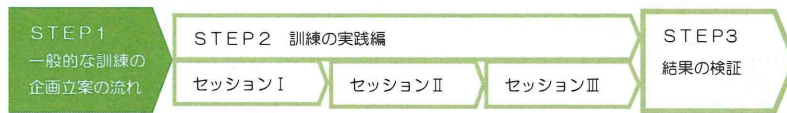
訓練の内容を検討する際は、以下のような項目について、検討することが必要です。

- 新型インフルエンザの発生段階：新型インフルエンザ等の発生段階（海外発生期、国内発生早期、国内感染期等）を設定します。
- 訓練シナリオ（病原性等）：発生する新型インフルエンザ等の病原性を設定します。
- 発生状況：第一例の発生状況（年齢層・クラスター等）を検討します。

なお、訓練を企画立案する際は、既存の資料等の活用することで効率的に訓練が実施できる場合もあります。

例えば内閣官房が平成25年度に開発した「新型インフルエンザ等発生時の行政対応訓練・研





修ツール（以下、内閣官房訓練ツール）」では、H1NX（病原性が弱い架空のウイルス）とH7NX（病原性が強い架空のウイルス）の2つのシナリオを想定した状況付与シナリオが作成されています。訓練目的に応じて、こうした資料を有効に活用しましょう。

表 4 平成25年度内閣官房訓練ツールで提示されたシナリオ

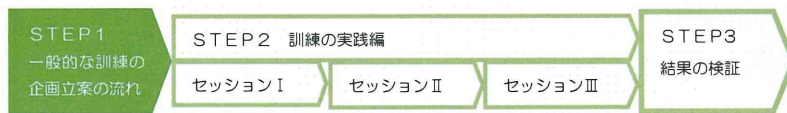
	H1NX (2009H1N1pdm 類似/やや病原性高い)	H7NX (想定：スペインインフルのみ)
発生国	南米：日本との直行便少ない	東南アジア：在住の日本人多数。直行便多数。
被害	若年層に多く感染 (高齢者に弱い免疫あり)	若年層の他、社会人にも感染。 国内感染のピークが早い
致命率・病原性 (WHO 発表の世界平均)	発生初期（海外発生期）は0.8% →国内発生期0.2%（アジアインフル程度） に下方修正当初発表	2.0%（スペインインフル程度）
発生初期の状況 (国内発生早期)	◇第一例目で渡航歴のない高校生の集団感染が 確認される【D県E市】 ※国内発生第一例目で疫学リンクが追えない集 団感染のため、国内発生早期の期間がない	◇渡航歴のある社会人集団が国内第一例【A県G市】 ※M国への渡航歴のある工場勤務者を中心に、集団感染が 確認されるが疫学リンクが追える状態
緊急事態宣言	国内発生と同時に緊急事態宣言	疫学リンクが追えなくなった時点で緊急事態宣言
医療体制	国内発生と同時にすべての医療機関で 診療する体制に移行	診療拒否する医療機関が続出し、臨時的医療施設を設置
ワクチン	比較的スムーズに製造 ※病原性が弱いことが判明後の特定接種・住 民接種の実施の可否の検討が求められる	国内感染後のピークが早く、 ワクチン製造が間に合わない
対策のポイント	政府が「緊急事態宣言」をした後に病原性が 比較的低いと判明	臨時的医療施設設置の検討が求められる

### (3) 訓練形式の選択

訓練の形式は大きく分けて研修、机上演習、体験・実動型訓練の3つのタイプがあります。目的に応じ、最も効果的な訓練形式を選択しましょう。

表 5 訓練形式とその特徴

訓練形式	特徴	
研修	座学を中心として基礎知識及び専門知識の習得を図る。関係者の基礎力向上、共通理解醸成という観点から、定期的実施しておくことが必要。さらに組織が抱える未解決の課題等についても議論を深めておくことが効果的である。	
机上演習 (Table Top Exercise)	実際に体を動かすものではなく、イメージ力の向上や、判断能力の向上を目的とする場合に適した演習。空間的・時間的な制約を受けず、例えば災害の長期化に関する課題の抽出等、実際の訓練では実施が困難な事項の検討にも適している。	
体験・ 実動型 訓練	指揮所訓練 (Command Post Exercise)	対策本部等（指揮所）における判断や意思決定、情報連絡等、実践的な対応力の向上、検証を目的とした訓練。訓練参加者（プレイヤー）は統裁側（コントローラ）から付与される状況に基づき、自ら判断し行動する。訓練シナリオを事前に提示しないシナリオ非提示型で実施されることが多い。
	実習	講義等で学んだ技術や方法等を実地または実物にあたって学ぶ。訓練では、手順の確認を模擬する。PPE着用訓練や模擬記者会見等がこれにあたる。
	ドリル	資機材の取扱い等、個々の技能習得のために繰り返し実施することで、その手順への習熟を図る。
	実動訓練 (Field Exercise)	参集、現場での対処活動、搬送活動等、現場活動を対象とした訓練。対応手順や連携の確認に主眼を置くため、事前に訓練シナリオを提示する形式で実施されることが多い。



机上演習を実施する場合は、関係者が国や自治体の行動計画やガイドラインの内容を理解していることが必要となります。担当者が異動直後など、基礎知識が不足している場合は、研修と組み合わせて実施することなども考えられます。

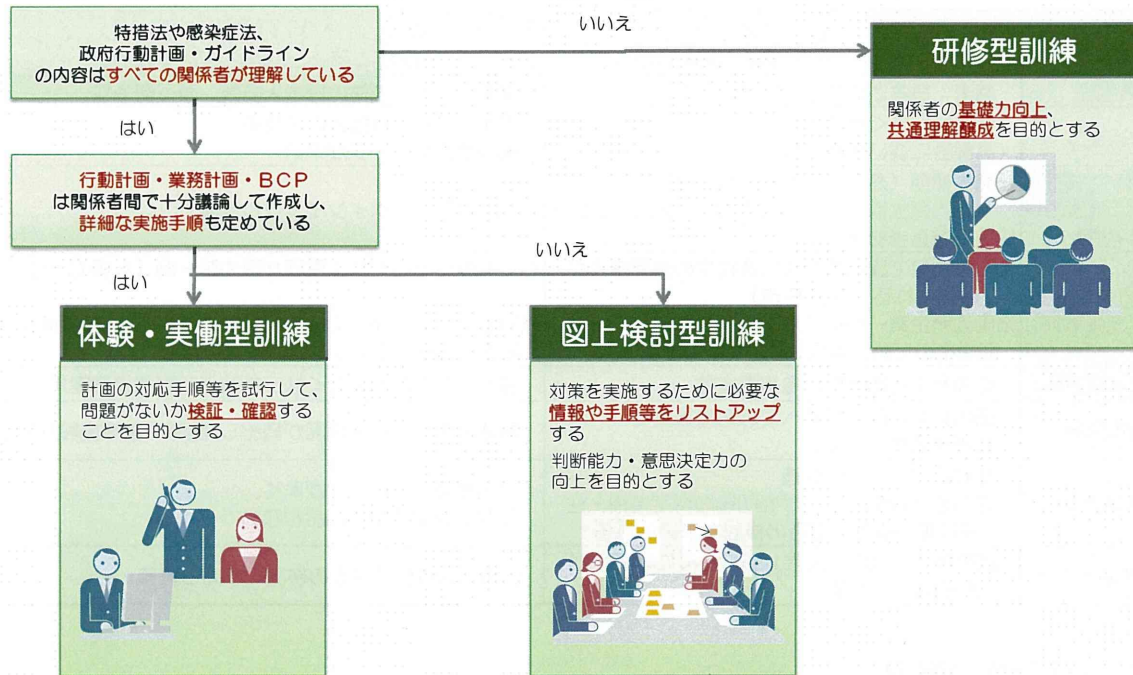


図 1 新型インフルエンザ訓練の選択フローの例